

## 令和3年度全国学力・学習状況調査における

### 北九州市立 曾根 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和3年5月27日(木)に、3年生を対象として、「教科(国語、数学)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、国及び市教育委員会からの情報提供(10月)受け、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

つきましては、学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面です。本校では、今後も他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

#### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

#### 2. 調査内容

##### (1) 教科に関する調査(国語、数学)

###### 教科に関する調査(国語、数学)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

##### (2) 生徒質問紙調査

###### 生徒質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

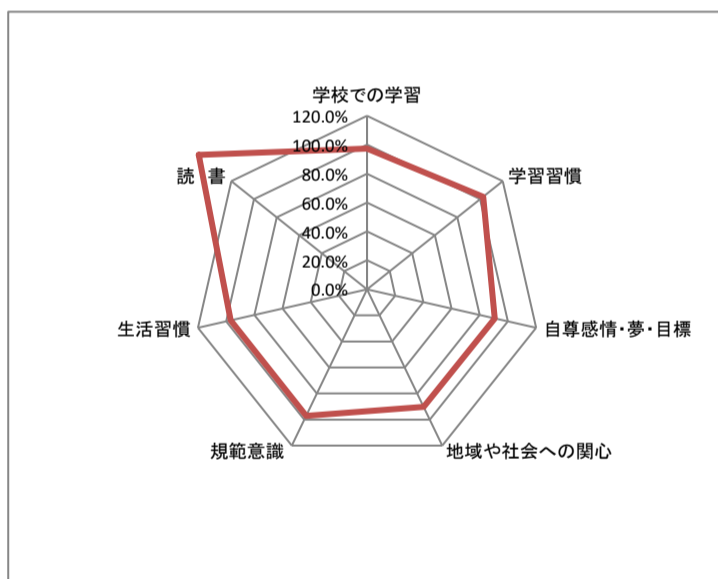
#### (1) 全国・本市の学力調査(国語, 数学)の結果

本年度の結果	国語		数学	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.8	63	8.8	55
全国	9.0	65	9.1	57

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体的に全国平均正答率を上回っていた。特に、話す・聞くことの領域や、記述式の読むことに関する領域の問題の正答率が高かった。全教科で、話し合いや、交流する活動を取り入れた授業の工夫の効果が感じられた。</li> <li>書くことの領域については、全国平均を下回った。</li> </ul>	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ問題の正答率が高かった。</li> </ul>	上回っている
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書く問題に課題がみられた。</li> </ul>	
数学	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体的に全国平均正答率を上回っていた。数と式、図形、資料の活用の領域に関する問題の正答率が高かった。数学的な技能、見方や考え方の力が向上した。</li> <li>関数の領域については、全国平均を下回った。数量についての知識・理解の問題に課題が見られ、今後の指導を必要としている。</li> </ul>	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>数と式や図形についての知識・理解、記述式の問題に関しては正答率が高かった。</li> </ul>	上回っている
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>関数の意味を理解しているかを問う、短答式の問題に課題が見られた。</li> </ul>	

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭学習については、計画的に勉強していると答えた割合は全国平均を上回っていた。しかし、1日あたりの勉強時間に関しては、平日・土日ともに全国平均を下回った。</li> <li>学校での学習については、授業で学んだことを生かしながら自分の考えをまとめたり発表したりすることはよくできていたが、分らなかった点を見直し、次の学習へ生かすことができていないことが課題である。</li> <li>心の育ちについては、「いじめはどんなときでもいけない。」という規範意識は高かった。しかし、「自分にはよいところがあると思いますか。」という自尊感情についての問いは、肯定的な回答の割合が全国平均を下回った。</li> <li>1日当たりの読書時間は、全国平均を大きく上回っており、日ごろから本に親しむ生徒が多いということが結果に出ている。</li> </ul>

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組

- 授業の中で、自分の考えを書いたり発表したりする場面を設定する。また、ICT機器を効果的に活用した授業の工夫と実践を今後も継続する。また、一人一人の生徒が、学習の中で、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習へつなげられるような教材や学習環境を設定する。
- 国語科では、言葉の力の向上を目指すとともに、作文指導等を通して、書く力の定着を図る。
- 数学科では、数量についての基礎的・基本的内容の定着に向けて、ミニテストやコンクール等を実施する。
- 全教科で、考査問題を工夫し、思考力等を問う問題を計画的に取り入れることで、思考力等の向上を図る。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

- 家庭学習用自学ノートの内容や活用の仕方を見直しを行い、効果的な家庭学習習慣の定着を図る。
- いじめの問題については、広報活動や規範教室などを通して、継続して、保護者への啓発活動に取り組む。
- スマートフォンの使い方については、小中で連携してポスター掲示等で啓発する。
- 学校行事や教育相談・進路学習等を通じて、自分のよさや得意な分野に気づくことができる場面を設定する。
- 春・秋・冬の読書週間を継続し、本を読む時間を確保することで、読書への興味をさらに高める。